

「研究大会」に向け 「研究スキル・発表力向上」 オンライン研修実施

6月21日に開催される「第2回福祉用具専門相談員研究大会」に向けて

研究スキルと発表力の向上を目的としたオンライン研修が、2月1日に開かれた。

講師は研究大会の査読委員長を務める、国際医療福祉大学大学院教授の東島弘子氏。実際に福祉用具専門相談員が作成したスライドなどを教材に、研究発表のポイントなどを説明した。

冒頭、東島氏は「研究発表にはルールがあり、そのルールに従って抄録やスライドを作成・発表

することが、全体のスキル向上につながる」と説明。その上で、抄録と発表スライドの書き方の違いなどについて解説した。

東島氏があげたポイントは、抄録・スライドともに、「抽象的な表現を避け、事実のみを書く」ことで、背景・目的・方法・結果・考察・結論を意識して作成することが肝要だと話した。その上で、抄録は「後に残るもの」を意識し、必要な情報を書き込むこと、反対

にスライドは「一枚に情報を詰め込みすぎず、キーワードを用い、口頭で説明を行うなどのアドバイスを行った。

オンライン研修には当初の予想を上回る60人超が参加。実行委員の肥後一也さんは、「こうした技術は、研究発表の場だけでなく、福祉用具専門相談員として普段の記録作成やケアカンファレンスの場などでも活かせる」と、研修に手ごたえを感じていた。

シルバー産業新聞

2021年（令和3年） 2月10日号 18面